

職業奉仕と二つの標語

横浜港北 桑原 薫

職業奉仕とは、職業を通じて社会に貢献することと言われていますが、これはドナルド・カーターが自分の生きる証しについて述べたもので、職業奉仕について述べたものではありません。しかもここでいう社会は community のことで、それは当時、エリアを共有する仲間の集まりという意味でした。職業奉仕とは、社会にサービスすることですが、ここでいう社会は society のことで、それは当時、利害を分かち合う仲間の集

まりという意味でした。つまり事業主にとってそれは、顧客や従業員などの職業関係者のことだったのです。「四つのテスト」の **concerned** (みんな) の意味も、正しくは関係者全員です。つまり、もうけようとしなくても、職業関係者全員にサービスすれば、その結果として利益が生まれる、というのが職業奉仕の理念です。

それを表すのが、一九一〇年の「自分の仲間に最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という標語です。翌年、この標語から「自分の仲間に」という条件を外してもう一つの標語と理念をそろえることにしました。

もう一つの標語とは「Service, Not Self」であり、会員同士の相互扶助を会員外へ拡大しようという意味でした。つまり、二つの標語の理念が「エゴイズムではなくサービス」にそろえられたのです。

しかしながら、エゴイズムを否定することは、生物の存在自体を否定することになります。一九一七年ごろ、Not を Above に換えることによつて、「エゴイズムではなく」を「エゴイズムよりも」と改めますが、二つの標語の理念をそろえたことは変わりません。なぜなら、その後の決議 **三三—三四** において、ロータリーの哲学が「Service Above Self (超我の奉仕)」の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである、と示されているからです。従つて「Service Above Self (超我の奉仕)」は、エゴイズムよりもサービ

スという理念であり、Self が我のことではなく、我欲やエゴイズムのことだとわかります。つまり、ロータリーには、一九〇七年からの、我よりも他者という理念と、一九一一年からの我欲 (エゴイズム) よりもサービスという二つの理念があるのです。前者は奉仕という理念 (idea) で、後者はサービスの理想 (ideal) という理念だと考えられます。

(第二五九〇地区 神奈川県 工業塗装)